

大きくなりました。さまざまな理由がありますが、地域どうしの結びつきをより捉えやすくすることもその一つです。p.117～119「東北地方」では、これまで見えなかった津軽海峡の全域を掲載したことで、北海道と本州間の交通の要衝である津軽海峡のようすが掴めるようになりました。また、仙台市とその周辺の50万分の1の地図も増え、地方中心都市のようすをより詳細に知ることができます。ここでは、人々の営みやくらしの舞台となる自然のようすの読み取り方を紹介しましょう。

まず「点」に着目します。都市や山頂、空港、くらしに関わりの深い農作物や工業製品の記号を探してみます。日本海沿岸の酒田市では電子部品、太平洋沿岸では岩手県、宮城県に海産物の記号が見られるなど、各地で発達した産業を読み取れます。

次に「線」に着目します。「都道府県界」や「JR新幹線」が目立ちますが、近年のくらしと産業の関わりを考えるうえで重要なのは「高速道路」です。茨城県から青森平野まで高速道路が東北地方を縦断しています。この線を指でたどってみると、たとえば青森と他の都市、農作物の産地がどのようなルートで結びついているのか、イメージを膨らませて確かめることができます。

最後に、「面」に着目すると、土地の高さに変化があることがわかります。高さで色分けした表現に立体的なレリーフを加えているため、より視覚的に高さを感じ取れるようになりました。東北地方の南北に連なる奥羽山脈が、日本海側と太平洋側の気候、人々の交流などで大きな要因となることがわかります。

このように「点」「線」「面」を意識して地図を読むことによって、より多角的、広域的な視点から人々の営みや自然のようすを理解することができます。地名確認にとどまらず、さまざまな場面で、新しく生まれ変わった本書が活用されることを願っています。

(帝国書院編集部)

